中学生がカナダで見たものは（下）

名取市中学生海外派遣事業（3月26日―4月5日）の派遣団員として、カナダ西部、ブリティッシュコロンビア（BC）州の「Sooke（スーク）」を訪れた本市の中学2年生22人。ホームスティなどをしながら、お国ぶりや暮らしぶりに触れました。最終回の今回は、スークやバンクーバーなど同国西岸のまちで中学生たちが見聞きした現地の生活もようをレポートします。

（この稿終わり）

市内の中学生たちが飛行機を乗り継いで、日本から約8千キロ離れたスークに着いたのは3月28日。このまちの12―15歳の子どもたちが通う公立中等学校「ジャーニーミドルスクール（JMS）」の生徒宅に5日間滞在し、生活の端々から見える日加の違いを感じ取りました。

カナダはアルバータやオンタリオなど10の州（province）からなる連邦国家。その中でもスークは、太平洋に面したBC州にある人口1万3千人の地方都市です。州都・ビクトリアからは車で1時間ほどの距離。「最近はベッドタウンとして需要が多く人口が増えている」とは、まちの人びとの談。

道路の幅員は総じて広い。行き交う車はピックアップトラックのような排気量が大きなものが大半です。滞在先の家の人に聞くと「不整地を走ることが多いからこのほうが便利なんだ。燃料代はかさむけどね」。

その一方、電気自動車やハイブリッド車といったガソリン・ディーゼル車に比べ環境負荷が小さな車もちらほら。何よりも日本メーカーの車が多く走っていることに驚きます。

「進め」は青、「止まれ」は赤―。交差点の信号機は日本とさほど変わりません。「積雪に備える」（現地の日本人女性ガイド）ため、車両用信号機は縦に据えられています。これは北海道や青森県など雪深い地方と同じ。

いわゆる横断歩道はありません。横断する時は歩行者用信号機に従います。表示間隔が短く、これにはなかなか慣れませんでした。

信号機が無い道では、車が途切れるのを待ち道路を横切ります。けれど心配ご無用。ほとんどのドライバーが止まってくれるのです。窓を開け、気さくに手を挙げ「渡れ」と合図する運転手が何と多いことか。「大きな国の住人は心も大らかなのかも」。感慨深げに笑う女子中学生の姿が印象的でした。

雪に備え、信号は縦に設置。ただ、「このあたりはあまり雪が降らない」と住民

朝、スークの海岸から太平洋を望む。遥か先に米・オリンピック山脈が見える

右端の標識にある「USA Border（米国境）」の文字が見える

近い米国、身近な「国境」

濃い霧が立ち込める早朝のスーク沿岸。やがて海霧が晴れると米・ワシントン州のオリンピック山脈が視界に入ります。

カナダの人びとにとって隣の米国は、距離的にも心理的にも近いようです。「休日、シアトルに野球を見に行くことも少なくないの」とJMSの女性教諭。同じ北米大陸にある両国間はずいぶん気楽に行き来ができるらしい。

そういえば、スークからバンクーバーに向かう途中、高速道路には「USA Border（米国境）」と記された標識がいくつも掲げられていました。

「陸続きで隣の国に接していることが実感できる」と男子中学生。「四方を海で囲まれた日本の私は『国境』というものを大げさに考えていたことに気づきました」。

ジャガイモ料理をよく食べる

こちらの人たちがこよなく愛す「poutine（プーティン）」という食べ物があります。フライドポテトにチーズとグレイビーソースをかけたファストフードとでも言いましょうか。「おいしいものはたいてい体に悪いのよ」と現地の女性ガイドがいたずらっぽく笑います。

プーティンに限らず彼らは実によくジャガイモを食す。ハンバーガーにも魚料理にも、たいていジャガイモ料理が付いてきます。そのどれもがおいしい。

ジャガイモはいわば彼らの主食。米を使った料理や食べ方が日本で独自の進化を遂げたように、カナダにおけるジャガイモ料理も長い時間をかけて進化してきたことを思いました。

問い続けることの重要さ

今回、中学生22人は、ホームスティをはじめ様々な体験をしてきました。

4月末、文化会館であった派遣報告会で、女子中学生の一人が振り返りました。

「そこで暮らす人たちの生活に入ることが、その国を知る一番の近道なのだ」。

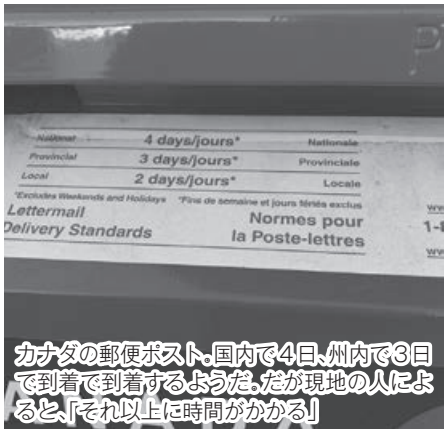
滞在期間中、家庭で、街角で、中学生たちは日本との違いに数多く触れました。一人ひとりが「なぜ違いは生まれるのか」「背景は何だろうか」と問う毎日でした。

多文化共生社会やダイバーシティ（多様性）という言葉を頻繁に聞くようになりました。問いかけの解は容易に求められずとも、問い、考え続けることが「共生」や「多様性」ある社会を育て、豊かなものへと磨き上げる方策なのだと思います。

カナダの名物料理「プーティン」

ハンバーガーに添えられたフライドポテト。滞在中、ジャガイモをよく食べた

ほとんどの文房具店やスーパーには、日本ではあまり見かけないメッセージカード売り場がある。驚くほど種類が豊富だ



カナダの郵便ポスト。国内で4日、州内で3日で到着で到着するようだ。だが現地の人によると、「それ以上に時間がかかる」

スーパーでもコンビニでも多種多様な医薬品が売っている。「軽い不調なら病院に行かずに市販薬で何とかする人が多い」と現地ガイド

木材の生産が盛んなためか、電柱の多くは木でできていた

カナダの国土は広い。地域ごとにある新聞は、小さな町の出来事を子細に伝えていた

食の習慣など滞在期間中、ホストファミリーから多くのことを学んだ